

CENTER NEWS

2013.7



KG&ERc

No.323



目 次

理事就任の挨拶 八谷 誠	1
5月 定例理事会	2
第33期 通常総会報告	3
技術者紹介コーナー（第112回）新居 和人	6
【シリーズ：表彰論文⑱】今井 千鶴	中小企業人材確保推進事業コーナー
付加体地質トンネルにおける物理探査の適用事例	7
恩を仕事で返す 三好 功季	9
行事・講習会・資格試験等のご案内	10
Soil Test Contest ～関西地区地盤系研究室対抗戦～を行いました	11
こんな時代だから、ちょっと心に残る良い話	13
編集後記	14

表紙説明

何回か通行したことがあり、個人的にかなり気になっておりました千本松大橋を紹介致します。千本松大橋（完成 昭和48年）は、大阪市西成区と大正区の木津川に架かる長さ323.5m、高さ水面より約33mのメガネ橋です。メガネ橋といわれるように橋の両端の取り付け部は2つのループからなっています。車で走ると結構、目が廻るような感覚に陥ります。

上 大正区側のループの中は、少年野球の練習場
となっています。

左 大正区側から西成区側を臨む

右 西成区側の出入り口

この橋ができて、千本松渡船は残っています。ほぼ15分間隔で、午前6時から午後7時位まで運行しており、乗船時間は1分足らずです。上空からの写真は大阪市ホームページより転記しました。

（中山 記）





理事就任の挨拶

中央復建コンサルタンツ株式会社

八谷 誠

私は、第33期通常総会において理事を仰せつかりました中央復建コンサルタンツ(株)の八谷(はちや)と申します。私は同社に入社以来27年間、ほぼ一貫して地盤調査・設計等に携わってきました。協同組合関西地盤環境研究センターとの関わりは、入社当初から土質試験を依頼する一方で、土質試験に関わる相談に乗っていただいたり、無理を聞いていただいたり、いろいろお世話になっていました。そんな折、収益事業検討小委員会が平成7年に発足した当初から委員に任命され(平成15年に事業検討小委員会に統合された)、現在に至るまで、なんと18年もの間委員会活動を行ってきたこととなります。この原稿を書く段において振り返ってみて今更ながら、「長い間やりすぎたかな?」と感じています。この間、環境事業の立ち上げや大日の事務所から現在の摂津の事務所への移転問題などに微力ながら協力してまいりました。そんな関係もあり、この度理事に選任されたものと考えております。若輩者ではございますが、皆様方のご指導ご鞭撻をいただき、組合運営を推進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年首相が変わってから急に日本全体の景色が少し明るくなったような気がし、実際、我々建設関連業においてもわずかながら順風を受けているような感じがしております。しかし、この風をどのように受け止めるか、今ここでじっくり考えておくことが必要であると思います。今こそ将来の礎を確たるものとするとともに、若い人達が競って入ってくるような業界にしなければなりません。また、そのためにも若手から中堅層さらには管理職層に至るまで人材育成・開発が急務であると痛感しております。各組合員様も様々な取り組みを試行されているものと推察します。弊社においても魅力あるコンサルタントになるべく「時短」に真剣に取り組もうとしています。仕事のやり方から変え、より効率化し、かつ利益が見込める仕事をしていこうと努力し始めたところでございます。キーポイントは、管理職層の意識が変わらなければならないということのようです。どのように変化してゆくのか、来年～再来年の今頃が楽しみです。

最後に、理事就任に際して、センターの役割は何かについて再度じっくり考える一方、現在まで取り組まれてきたように「開かれたセンター」、「情報発信ができるセンター」にしていきたいと思っておりますし、次々と若手が入社してくるような、また仕事をさらに効率化するような取り組みを行い、センターの発展に寄与していきたいと考えております。このような事業を運営するためには、安定した利益確保が欠かせません。組合員の皆様のご協力を得ながら、努力していきたいと思っておりますので、どうか宜しくよろしくお願い申し上げます。

平成 25 年 5 月 28 日（火）12 時 00 分より、大阪キャッスルホテル会議室において、理事 9 名が出席して開催した。

定款の定めにより、高村理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

1) 一般経過報告

4 月の会議・会合・行事について報告した。

2) 4 月分事業報告の件

①試験実施状況報告

試験依頼件数は 238 件で、受注金額は 20,729 千円となり、請求金額は 19,749 千円であった。

次月に繰越す未試験金額は 50,637 千円となっている。

②収支実績報告

4 月の入金額は 33,838 千円であり、日環協の年会費支払い、借入元利金の返済等を行った。

3) 第 33 期通常総会進行の件

4) 通常総会後の手続き等予定の件

5) 平成 25 年度ジオ・ラボネットワーク経営懇談会・定例会開催予定の件

6) その他の件

【審議事項】

1) 圧密試験機購入の件

2) 全地連創立 50 周年記念事業表彰行事候補者推薦の件

3) その他の件

①中期経営計画の件

第33期 通常総会報告

平成 25 年 5 月 28 日（火）大阪キャッスルホテル（大阪府中央区天満橋京町）会議室において、第 33 期通常総会が 40 名（内委任状によるもの 11 名）の組合員の代表者を集めて開催した。

15 時 00 分、当総会の資格審査を行った後に、寺西理事が開会を宣した。

まず、高村理事長が第 33 期の組合運営と事業の概況等の報告を行った。

続いて、司会者 森 辰義が議長選出について議場に諮ったところ、田中 政憲が満場異議なく選任され議案の審議に入った。

1. 議 案

第 1 号議案 平成 24 年度 事業報告書承認の件

議長は佐藤専務理事をして、議案書資料の各項につき報告をさせた。

I. 事業活動の概況に関する事項

1. 試験事業実施状況
2. 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況

II. 組合運営の状況に関する事項

1. 総会の開催状況
2. 理事会の開催状況
3. 委員会・部会・講演会等の開催状況
4. 主たる会議・会合・行事
5. 組合員数及び出資口数
6. 役員に関する事項
7. 職員の状況及び運営組織図
8. 施設の設置状況

III. その他組合の状況に関する重要な事項

以上第 1 号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第 2 号議案 平成 24 年度貸借対照表・財産目録・損益計算書並びに剰余金処分（案）承認の件

議長は四方副事をして、平成 24 年度決算報告を議案書資料の貸借対照表・財産目録・損益計算書及び収支予算額・決算額対比表により詳細に説明させた。

続いて、議長は高村理事長をして、平成 24 年度の剰余金処分（案）を詳細に説明させた。

次に議長は山本監事をして、平成 24 年度の会計監査報告をさせた。

以上第 2 号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第3号議案 平成25年度役員報酬（案）承認の件

議長は高村理事長をして、平成25年度の役員報酬（案）について説明させた。

以上第3号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第4号議案 平成25年度事業計画（案）並びに収支予算（案）承認の件

議長は高村理事長をして、平成25年度の試験単価（案）及び賦課金徴収（案）並びに会議室使用料（案）について説明させた。

続いて議長は、藤井理事をして平成25年度の事業収入計画（案）並びに平成25年度の収支予算（案）について説明させた。

以上第4号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第5号議案 平成25年度借入金限度額（案）承認の件

議長は高村理事長をして、平成25年度借入金限度額（案）について説明させた。

以上第5号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第6号議案 「平成24年度中小企業人材確保推進事業報告」の件

議長は佐藤専務理事をして、平成24年度中小企業人材確保推進事業の実施報告について詳細に説明させた。

以上第6号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第7号議案 中期経営計画の件

議長は佐藤専務理事をして、中期経営計画（案）並びにアンケートの内容について説明させた。

以上第7号議案につき満場異議なくこれを承認した。

第8号議案 その他の件 審議事項なし

第9号議案 役員改選

議長が、定款第25条1項の規定により、全理事及び監事の任期満了とそれに伴い改選を行う事を説明した。

続いて司会者は、改選方法等を説明し、審議の結果指名推選の方法による事となり、選考委員を3名推挙した。選考委員は別室において慎重に審議し、その結果を次の通り発表した。

理事	高村 勝年	株式会社関西地質調査事務所	代表取締役
理事	四方 克明	阪神測建株式会社	代表取締役
理事	窪田 博之	株式会社アテック吉村	代表取締役
理事	小路 博之	株式会社ヨコタテック	代表取締役
理事	寺西 一哲	株式会社ソイルシステム	代表取締役
理事	藤井 勉	株式会社エイト日本技術開発	取締役事業推進本部長
理事	田中 政憲	復建調査設計株式会社	顧問
理事	八谷 誠	中央復建コンサルタンツ株式会社	環境・防災系部門ゼネラルマネージャー
理事	桑原 隆之	明治コンサルタント株式会社	大阪支店長
理事	佐藤 和志	協同組合関西地盤環境研究センター	
監事	山本 善浩	双葉建設株式会社	代表取締役
監事	竹末圭一郎	株式会社白浜試錐	代表取締役

以上、上記被指名人をもって当選人とするかを議場に諮ったところ、満場異議なく可決承認した。

尚、当選者は全員即時就任を承諾した。

以上で全部終了したので、16時40分に小路理事が閉会を宣した。



所 属：株式会社関西地質調査事務所
氏 名：新居 和人
出 身 地：大阪府摂津市
生年月日：1979年8月29日

業務でいつも大変お世話になっております(株)建設技術研究所の吉田様からご紹介承りました、(株)関西地質調査事務所の新居（にい）と申します、技術者紹介ということで、簡単ではありますが、私の自己紹介をさせていただきます。

私は弊社に入社するまで大阪府摂津市で過ごしました。幼少期から淀川河川敷を遊び場としていたせいか、川の流れのような穏やかな性格に育ちました（笑）。

大学時代は、摂南大学工学部土木工学科の環境地盤研究室で、土の凍結融解現象を利用した、土壤汚染浄化技術の研究をしておりました。その後、ご縁があって関西地質調査事務所に入社させて頂きまして、現在に至ります。私が主に携わっている業務は土壤汚染調査における、調査計画から現地調査、土壤ガス分析（写真1）など手広く業務に関わっています。

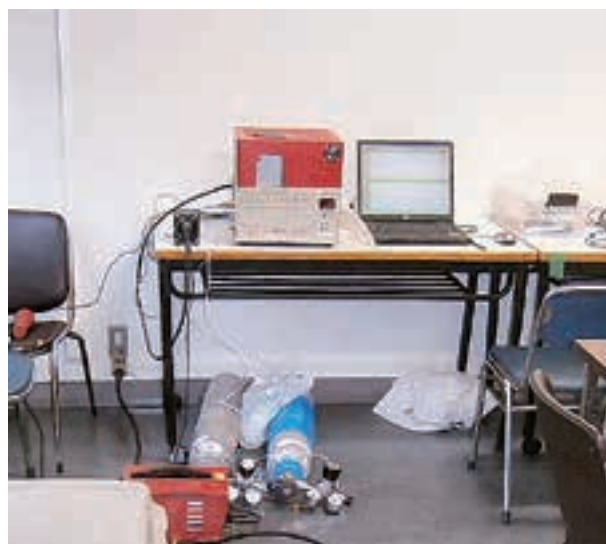


写真1 土壤ガス分析状況

また、プライベートでは結婚を機に京都府向日市に移り住んで4年になります。向日市は、京都盆地の南西端に位置しており、市の面積が7.67km²で、埼玉県蕨市、東京都狛江市について、全国で3番目に狭い市町村です。私の自宅近くには、写真2に示すような竹林の散策路があり、休日には、今年の5月に1歳になったばかりの娘と一緒に散歩をよくしています。



写真2 自宅近くの竹林散策路

付加体地質トンネルにおける物理探査の適用事例

中央復建コンサルタンツ(株) ○今井 千鶴
 中央復建コンサルタンツ(株) 高林 茂夫
 中央復建コンサルタンツ(株) 岡島 信也

1. はじめに

トンネル調査において、複数の物理探査を併用することによって、より詳細な地盤情報を得ることが可能であると言われている。

今回、複数の調査手法を組み合わせて実施したことにより、地山全体の地質分布および構造線の性状等を効果的に把握することができたので報告する。

2. トンネル概要と地質

対象のトンネルは、宮崎県西臼杵郡高千穂町～日之影町に計画されている延長約2,400m、最大土被り約370mの大規模トンネルである。

計画トンネルルートに分布する地質は、石灰岩を主体に、砂岩、粘板岩、緑色岩からなる秩父累帯が分布するが、終点側には、砂岩、頁岩からなる四万十累帯が分布する。なお、両地質帯は仏像構造線を境界として接する(図-1参照)。

仏像構造線や石灰岩の分布を要因とする地下水の涵養が予想され、施工による大量湧水や湧水の問題が懸念された。

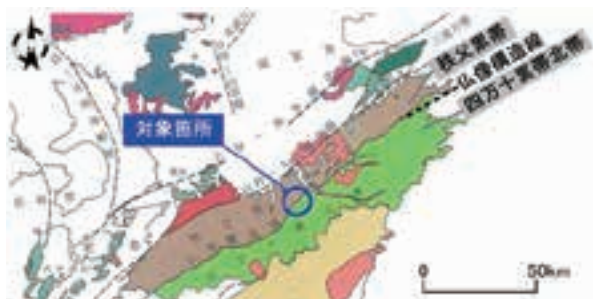


図-1 調査位置と地質の分布
 (出典：日本の地質図体系 九州地方)

これらをふまえ、以下の地質上の問題点に着目した。

- ・石灰岩を主体とする秩父累帯の分布と地質構造
- ・仏像構造線の位置と状況(破碎の程度、地下水状況)

3. 調査計画および内容

表-1に、実施した調査を一覧で示す。また、図-2に、調査位置図を示す。

表-1 調査内容

ボーリング調査	掘進長:518m (鉛直:9箇所・418m/水平:1箇所・100m)
原位置試験	電気検層:1箇所(132m)
	速度検層(P波):1箇所(132m)
	湧水圧試験:2箇所(6回)
物理探査	弾性波探査:3.105km
	比抵抗二次元探査(電気:1.400km, 電磁:1.350km)
室内試験等(土質・岩石試験, X線分析, 偏光顕微鏡観察等)	



図-2 調査位置図

前述の地質上の問題点を解明することを目的として、当初設計にあったボーリング調査および弾性波探査に加え、比抵抗二次元探査を提案し、実施した。

また、物理探査結果から構造線の発達位置を把握し、その位置で鉛直ボーリングの実施を提案し、断層状況(破碎の程度、地下水状況等)の確認を行った。

4. 調査結果

(1) 弾性波探査

弾性波速度は、最下層で4.5km/s以上が確認された。一方、200m近い深度まで4.5km/s未満の低速度域が分布する箇所のあることが確認された。

(2) 比抵抗二次元探査

土被りが厚くなるトンネル中心部は電磁探査(CSAMT法)、土被りが小さい両坑口付近は電気探査にて実施した。

起点側、終点側および土被りの比較的薄い区間は、300Ω・m以下の相対的に低比抵抗の分布が確認された。一方、高土被り区間では、1000Ω・m以上の高比抵抗域が分布するが、部分的に低比抵抗帯の存在が確認された。仏像構造線推定箇所は、低比抵抗域として確認された。

(3) 湧水圧試験

秩父累帯の代表的な分布区間と仏像構造線の推定箇所、2箇所のボーリング孔を用いて実施した。前者の最終地下水位は、異なる試験区間においてもGL-26m程度と同じ水位を有していたのに対し、後者の最終地下水位は、構造線を挟んだ上下の試験区間において15m程度の水位差が確認された。

なお、透水係数は岩種によらず $10^{-6} \sim 10^{-8}$ (m/s)オーダーであり、この差は亀裂の程度によるものと考えられる。

(4) 速度検層(P波)

秩父累帯分布箇所のボーリング孔にて実施した。同じ地層においても、硬質岩(砂岩・粘板岩のCH級、石灰岩)は速い弾性波速度値が確認される一方、亀裂発達部は遅い速度値が確認された。

また、ボーリングで確認された石灰岩層において4.0km/s程度の速度を確認し、弾性波探査で確認された石灰岩の地山弾性波速度と概ね整合していた。

(5) 電気検層

秩父累帯分布箇所のボーリング孔にて実施した。砂岩・粘板岩部で350~800Ω・mだったのに対し、石灰岩部で750~1400Ω・mと、石灰岩が高い比抵抗値を示すことが確認された。この結果は、比抵抗探査結果の比抵抗値から推定した地層分布と同様の傾向を示した。

5. 地質解析・考察

(1) 地質分布について

得られたボーリング調査結果、原位置試験結果、地山の弾性波速度分布および比抵抗分布に、既往の地表踏査結果を加味し、総合的な地質解析を行った(図-3参照)。

縦断方向の地山弾性波速度分布と比抵抗値分布とを比べた結果、起点側の地山弾性波速度の低い領域と比抵抗値の小さい領域は、秩父累帯の粘板岩分布範囲や地層変化の著しい範囲、チャートの分布範囲によく整合することが認められた。また、この部分は特に低比抵抗を示すことから、地下水を涵養する可能性があると考えられる。

一方、仏像構造線付近からトンネル終点側にかけて広く分布する低速度・低比抵抗分布領域は、地表踏査においても地層変化の著しいことが確認されており、踏査結果に整合するものと考えられる。また、この領域は、層

理面や亀裂に沿って風化が深部まで達し、亀裂の卓越した部分を中心に、地下水を涵養することが挙げられる。

なお、秩父累帯石灰岩分布域の高比抵抗領域において、顕著な低比抵抗帯がみられなかったことから、大規模な鍾乳洞が分布する可能性は低いと判断した。ただし、石灰岩分布範囲やその周辺部については、小規模な空洞が存在する可能性は残るため、施工時に留意が必要である。

(2) 仏像構造線について

物理探査結果より、仏像構造線の発達が推定される位置にて鉛直ボーリングを実施した。幅10mの粘土部を伴う破碎帯を確認したが、その幅は3m程度であり、仏像構造線の破碎帯は比較的小規模であることがわかった(写真-1参照)。



写真-1 仏像構造線破碎状況(囲っている範囲)

6. おわりに

今回、複数の地質調査、物理探査を組み合わせ実施したことで、トンネル設計・施工に必要な地質情報を得ることができた。この事例を参考に、今後も調査地の地形・地質特性を考慮した効率的な調査計画の提案を行いたいと考える。

最後に、本発表にあたり、国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所に資料の提供をいただいた。この場を借りて心より厚く御礼申し上げます。

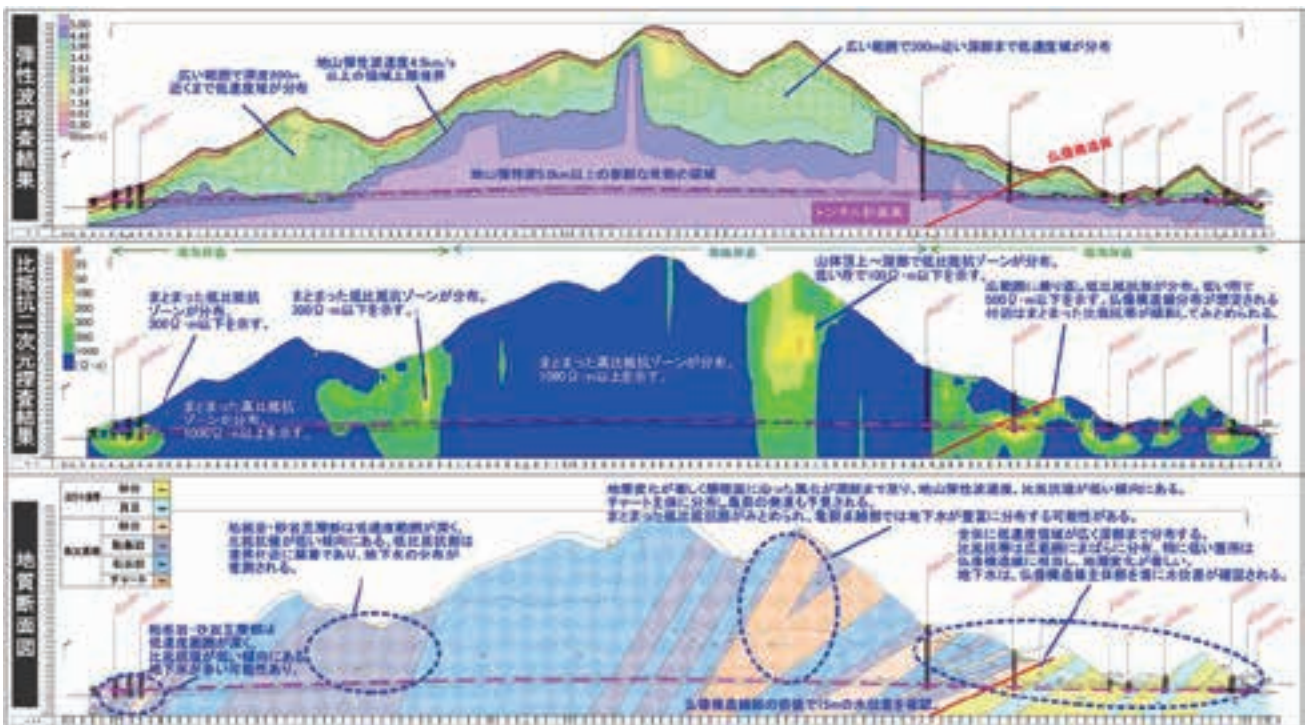


図-3 調査解析図

恩を仕事で返す



協同組合 関西地盤環境研究センター
地盤技術室 三好 功季

平成 25 年 4 月 1 日に関西地盤環境研究センターへ入所致しました三好功季です。高卒で採用という事でピチピチの 18 歳です。皆さんからすれば自分の娘さん、息子さんと仕事をするような感覚になると思います。是非ともよろしくお願いたします。

私の出身地は、兵庫県神戸市北区の鈴蘭台で生まれ阪神淡路大震災後に今住んでいる東大阪の町に引っ越してきました。小学校の頃から野球が好きで、今は地元の草野球チームにも参加しております。休日には歌うことが好きなので、よくカラオケに行っています。他にも、サッカーやバスケットボール、冬になるとスノーボードをしたり、全般的にスポーツが好きで人間です。このような私なので、体力には自信があったのですが私の上司である松本さんには手も足もせず、トレーニング不足を改めて感じました。これから仕事をしていく中で松本さんのような力を頼られる人材になりたいと思っていますので日々トレーニングを積み重ねていきたいです。私の趣味としましては、これからサーフィンや釣りにも挑戦していきたいと思っていますのでお誘い頂けたらとても嬉しいです。

ここで、正直な話をさせていただきますと高校では全く勉強をしておらず座学よりも実習が好きで人間でした。面接時では佐藤専務に見事に見透かされ、その上、妹に風邪をもらい体調不良での面接だったので本当に不安でいっぱいでした。採用が決まった時は、朝のホームルームで叫ぶくらいに喜びました。こんな僕でいいのかと何度も思いましたが、採用されたからには自信を持ち、胸を張って仕事をしていきたいと思えます。今現在優しい上司の方々やパートの皆様のおかげで無事 4 ヶ月目を迎えることが出来ました。特にお世話になっているのが、私の兄貴的な存在である教育係の橋本さんです。橋本さんは、日々の仕事の面ではもちろん生活面でもアドバイスをよくくれるとても頼れる上司です。最初は誰と何を話していいのかわからなかったのですが、皆さんが優しく接してくれているおかげで楽しく仕事に臨むことができます。月 1 回程度の飲み会では、面白い話や大人の話といった様々な話を聞くことができるのでこれからもどんどん参加していきたいです。

ところで、私がセンターへ入社して早 3 ヶ月が経ちました。私はセンターへ入社できて本当に幸せです。両親や祖母も心より感謝しております。この恩を仕事で返していけるよう日々勉強し、いろいろな壁を乗り越え将来のセンター長を目指して頑張っていきたいと思っていますので温かく見守って下さい。先程申し上げましたように、私は座学より実習派の人間なので仕事をどんどん体で覚えていきたいと思えます。これからセンターで仕事をしていく中で、私は良い職場の雰囲気を作ることができ、少しでも皆さんのお役に立てる人材になりたいと思っています。というか、なってみせます。まだまだ分からない事ばかりで失敗もあると思いますが、どうぞご指導よろしくお願いたします。

行事・講習会・資格試験等のご案内

(平成 25 年 6 月 28 日現在)

主催	開催日 開催地	名称	募集内容	申込締切
関西地質調査業協会 http://www2.ocn.ne.jp/~kstisitu/	10月4日 大阪	道路防災点検技術講習会	講習会	8月29日
全国地質調査業協会 http://www.zenchiren.or.jp/	7月13日	地質調査技士検定試験 地質情報管理士検定試験 応用地形判読士	受験	申込締切
	9月19日～20日 長野	「技術フォーラム 2013」長野 http://www.zenchiren.or.jp/forum2013	論文	募集終了
地質リスク学会 http://www.georisk.jp/	11月22日 東京	第4回地質リスクマネジメント 事例研究発表会	論文募集	9月30日
地盤工学会関西支部 http://www.jgskb.jp/	8月1日 追手門学院	古くて新しい“土の締固め”の 原理と実際」に関する講習会	講習会	7月18日
	9月13日 ドーンセンター	地盤調査の方法と解説講習会	講習会	8月30日
	11月8日 大阪市立大学	Kansai Geo-Symposium 2013 - 地下水地盤環境・防災・計測 技術に関するシンポジウム -	論文募集	7月12日
地盤工学会 https://www.jiban.or.jp/	7月23日～25日 富山	第48回地盤工学研究発表会	研究 発表会	
	9月11日～13日 東京	わかって使う FEM 講習会	講習会	
	11月22日 東京	第58回地盤工学シンポジウム	論文募集	4月17日～7月12日
土木学会関西支部 http://www.civilnet.or.jp/	9月17日	地盤情報を活用した防災ハザード マップの講習会	講習会	
土木学会 http://www.jsce.or.jp/	7月12日 東京	復興創意形成テーマ委員会シン ポジウム 復興まちづくりと創意形成 「被災地のこれから-今後の復 興に必要なものは何か-」	講演会	
	9月4日～6日 日本大学津田沼	第68回年次学術講演会	論文	募集終了
日本地質学会 http://www.jseg.or.jp/	9月14日～16日 仙台	第120年学術大会 トピックセッション	論文	募集終了
日本技術士会 http://www.engineer.or.jp/	8月4日	技術士第二次試験	受験	申込締切
	10月14日	技術士第一次試験	受験	申込締切
建設コンサルタンツ協会近畿支部 http://www.kk.jcca.or.jp/	9月12日	第46回研究発表会	発表会	
	11月10日	RCCM 資格試験	受験	7月19日必着
日本建築学会 http://www.aij.or.jp/	8月30日～9月1日 北海道	日本建築学会大会	論文	募集終了
株日刊建設工業新聞社/ (一社) 近畿建設協会	10月30日～31日 大阪	建設技術展 2013 近畿	技術展	
国土交通省近畿地方整備局 http://www.kkr.mlit.go.jp/	7月11日～12日 大阪合同庁舎1号館 第1別館・新館	平成25年度近畿地方整備局研 究発表会	発表会	

※内容の詳細については、ホームページ等でご確認願います。

Soil Test Contest

～関西地区地盤系研究室対抗戦～を行いました

センター長 中山 義久

平成 25 年 6 月 20 日に主催：地盤工学会関西支部、後援：関西地盤環境研究センターで、当センターを会場に開催されましたのでご報告いたします。

この企画は「人と技術の交流」を合言葉に、関西地区の大学・高専の地盤系研究室の学生・大学院生を対象に、対抗戦形式で土質試験の技量を競うもので、11 チーム（1 チーム 3 名）のエントリーがあり、当日はあいにくの雨でしたが、全員定刻通り集合しました。

開会式で豊田 巖（地盤工学会関西支部副支部長）は挨拶の中で、技術者は身に着けた技術と経験に裏付けられた「勘」というものを大事にせよと述べられ、まさに、技術者として備えるべき技術の一要素であると、強く再認識しました。

ルール説明に引き続き、粒度（フルイ分け）試験、液性限界試験、塑性限界試験の 3 つの試験で、コンテストに臨みました。終了後、澤 孝平（関西地盤環境研究センター顧問）から「試験データと不確かさ」の講義があり、また日置 和昭（大阪工業大学准教授）から各チームの自己データとコンテスト全体のデータを z スコアという統計的手法を用いて評価するための講義をして頂きました。



いつものフルイも慎重に



液性限界も順調にこなす



雨天決行



最後まで笑顔で

お待ちかねの表彰式では、京都大学 勝見 武教授（地盤工学会関西支部幹事長）から優勝チームに賞状の授与があり、大いに盛り上がりました。さらに交流会では参加者達は土質試験を通じた「人と技術の交流」を満喫し、その余韻を楽しみつつ、全員笑顔での散会となりました。



盛り上がった交流会

センターは、このコンテストの開催に土質試験専門機関として最大限のサポート体制で臨んだことで、存在感を関西地区の大学・高専の学生・大学院生の皆さんに少なからずアピールできたと感じております。

最後に、この企画を主催して頂いた地盤工学会関西支部幹事の皆様に御礼申し上げます。

参加の大学・高専は以下のとおりです。

京都大学、立命館大学、摂南大学、関西大学、大阪工業大学、福井大学、
明石工業高等専門学校



建通新聞（6月25日版）



日刊建設工業新聞（6月25日版）

こんな時代だから、 ちょっと心に残る良い話

今回のいい話の内容は、人間についてです。
何かを感じて頂けたら幸いです。お暇なときに一読してみてください。

(稲田 記)

同じ鳥でも飛ばないとりはなあんだ？

それはひとりという鳥だ。

寺山修司著『赤糸で縫いとじられた物語』より

人間は、人の間にあると書きます。人という文字も、支えあって立っています。

そもそも人は、一人では生きられないのです。一人では飛べないのです。

「いやいや、私は一人でちゃんとやっていますよ」という人がいるかもしれませんが。
しかしそれは、間違っています。

その人も、これまで多くの人にお世話になってきたし、いまも多くの人のお世話になっているはずです。親や先生、兄弟、友達、先輩や後輩、同僚、近所のおばさんなど…
いろいろな人との関わりによって、私たちの生は営むことができます。

夢に向かって進もうとするとき自分が一人だと思っていれば、飛べなくなってしまうかもしれません。

でも、これまでの人との関わりに感謝するなら、これからも自分から関わっていかうとするなら、力がわいてきます。勇気がわいてきます。

私たちは一人ではないのです。そのおかげで前に進めます。飛ぶことだってできるはずですよ。

【参考文献】

<http://archive.mag2.com/0000141254/20130610053000000.html>

編集後記

唐突ですが、私はカフェオレが好きです。

コーヒーやコーヒー+ミルク（フレッシュ）はあまり好きではないのですが、カフェオレは好きです。

コーヒーショップなどに行くと、カフェオレやカフェラテなどの飲み物があり、「オレ」と「ラテ」はどう違うのか？と疑問に思った方もいらっしゃると思います。

調べたところによると、カフェオレはフランス語（café au lait）で、カフェラテはイタリア語（Caffè Latte）であり、どちらも、「カフェ」はコーヒー、「オレ」・「ラテ」は牛乳を意味するようです。日本では、ドリップコーヒーに牛乳を注いだものを「カフェオレ」と呼び、エスプレッソに牛乳を注いだものを「カフェラテ」と区別していることが多いようです。（ちなみに、コーヒー牛乳というのは牛乳などの乳製品にコーヒーや砂糖で味付けした飲料の通称だそうです）

カフェラテの発音はイタリア語では「カッフエ・ラッテ」に近く、「カフェ・ラテ」というと、アメリカで一般的に飲まれるコーヒーにスチームミルクを注いだものという形になるようです。

イタリアに行かれる予定のある方は、コーヒーショップで「カッフエ・ラッテ」を頼まれてはいかがでしょうか？

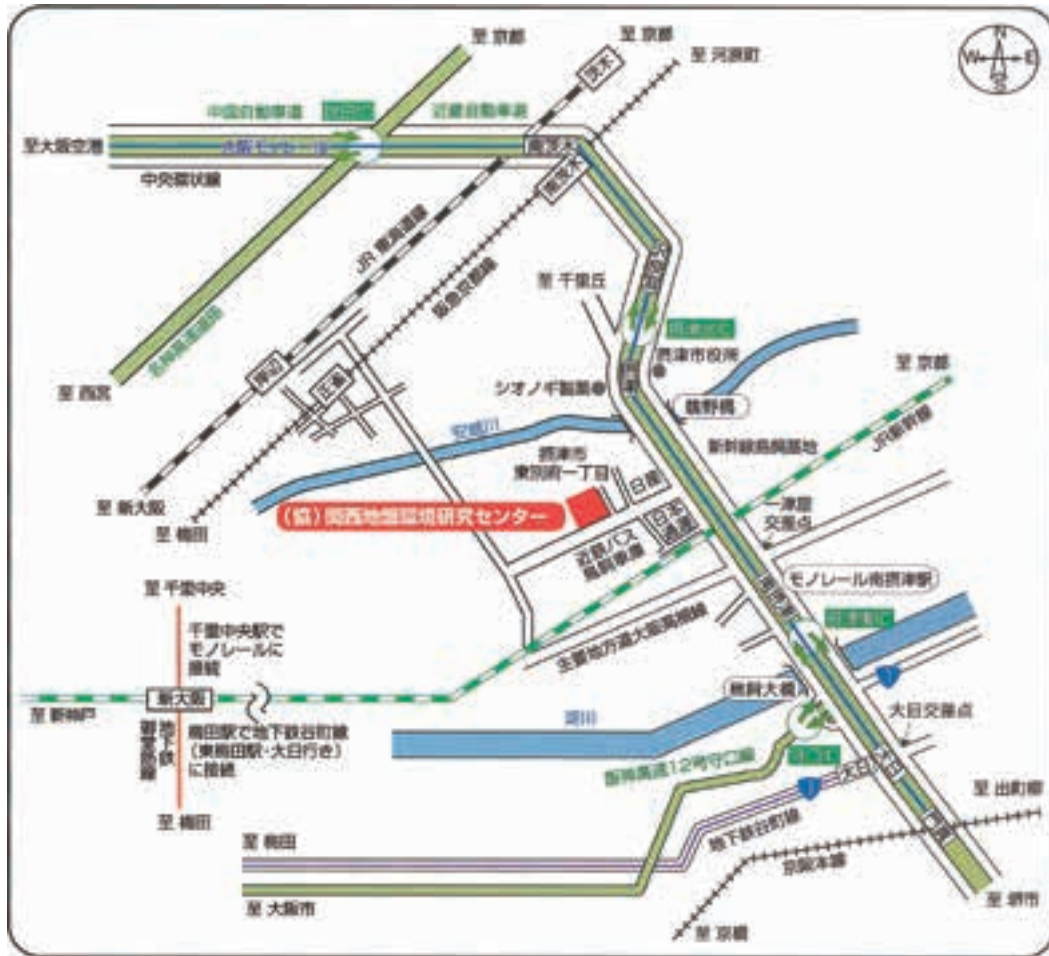
（小山 記）

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号
TEL 06-6827-8833（代）
FAX 06-6829-2256
e-mail tech@ks-dositu.or.jp

編集 情報化小委員会
編集責任者 中山義久
印刷



<http://www.ks-dositu.or.jp>



JR岸辺駅より車で約10分 阪急正雀駅より車で約10分 モノレール南摂津駅より徒歩約15分



JAB
Testing
FTL02100

認定範囲
M25機械・物理試験
M25.21土質試験

ISO 9001



JTCCM
OSCA
RQ 0704

(登録範囲) <http://www.jtccm.or.jp/>



MS
JAB
CM015

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<http://www.ks-dositu.or.jp>

ISO/IEC17025認定試験所(摂津試験所)

ISO9001認証取得

計量証明事業者登録(濃度)大阪府第10310号

環境省土壌汚染指定調査機関(環2003-1-99)